

モニタリングサイト 1000 沿岸域調査

毎年調査結果票 2008 (平成 20) 年度

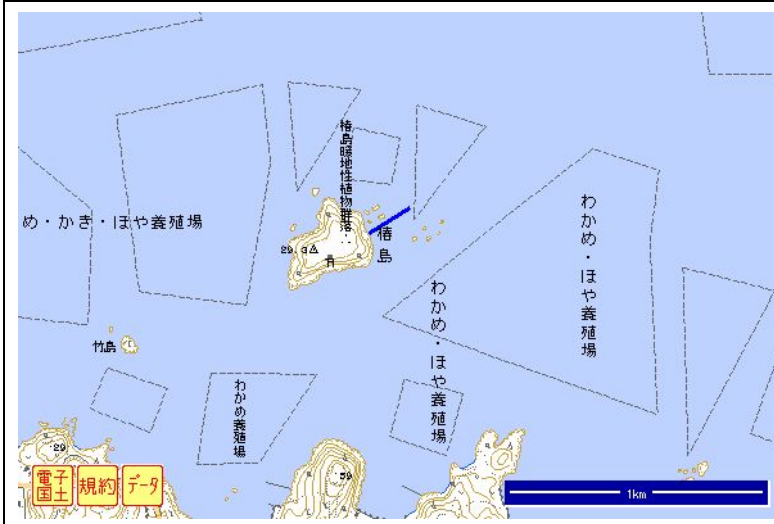
(1)サイト名	志津川 (宮城県本吉郡南三陸町)	略号	ABSDG
(2)海域区分	①北部太平洋沿岸		
(3)緯度・経度 (WGS84)	38.6511 N, 141.4917 E (起点)		
(4)調査年月日	2008年7月23日、24日		
(5)調査者氏名	サイト代表者：坂西芳彦 ((独) 水産総合研究センター 北海道区水産研究所) 坂西芳彦 ((独)水研セ・北海道区)、太齋彰浩 (南三陸町自然活用センター)、田中次郎 (東京海洋大)、倉島 彰 (三重大)		
(6)環境の概要	離岸距離と水深で底質が異なる。岸寄りには岩盤だが、離岸距離 50～80 m にかけては小転石、転石が混じる他、転石のみとなる部分もある。離岸距離 90 m 以遠は巨礫または巨礫と岩盤となる。三陸の典型的なりアス式海岸の中にあり、志津川湾内に浮かぶ島 (椿島) の外洋に面した岩礁海岸である。調査対象群落は湾内に位置するが、沖側の湾口部に面していることから海水の流動が活発で、透明度は高い。		
(7)植生(藻場) の概要・特徴	主要な植物として、アラメ、フシスジモク、エゾノネジモク、トゲモク、アサミドリシオグサ、フクロノリ、アミジグサ、マクサ、ユカリ、タンバノリ、マルバツノマタ、ミツデソゾ、ハイウスバノリが生育する。また、底生生物として、キタムラサキウニが確認された。調査海域には岸よりではエゾノネジモク、フシスジモクが混生するが、基本的にアラメが主体となる群落である。下草としてはアサミドリシオグサ、フクロノリ、アミジグサ、マクサ、ユカリなどが見られる。調査海域周辺ではマコンブ群落が見られる場所もあり、寒海性コンブ目と暖海性コンブ目が共存する海域の代表的な藻場の一つと言える。		
(8)その他特記 事項	本事業で定めた調査法に準じた。調査海域は岸よりではエゾノネジモク、フシスジモクが混生するが、基本的にアラメが主体となる群落であることから、アラメ群落が発達した水深帯に永久方形枠 (3 枠) を設置した。		

* (独) 水研セ=独立行政法人水産総合研究センターの略

調査地の地図



位置図（広域地図）
円内に調査地がある。
スケールは7 km を示す。



位置図（詳細地図）
実線は調査ラインを示す。
スケールは1 km を示す。

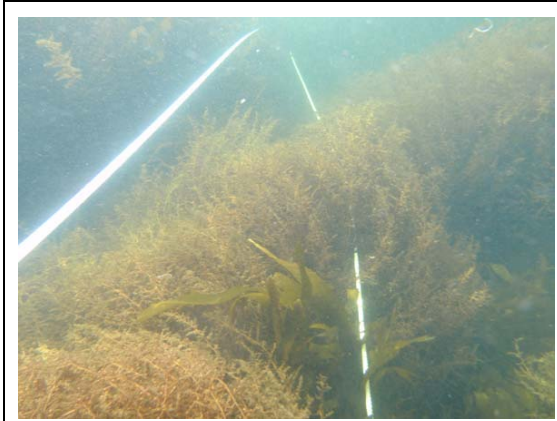
調査地の景観、生物写真など



景観写真：調査地近傍



調査風景：調査地近傍



エゾノネジモク群落



アラメ群落



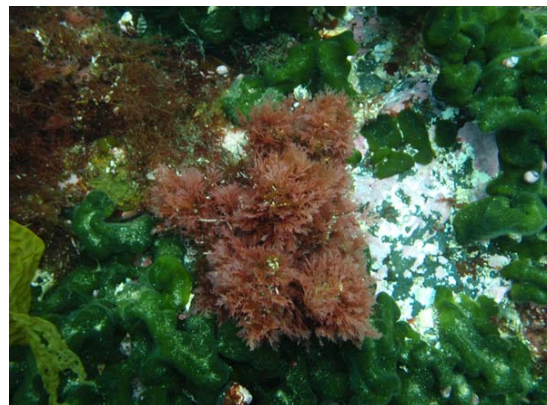
アラメ



アラメ幼体

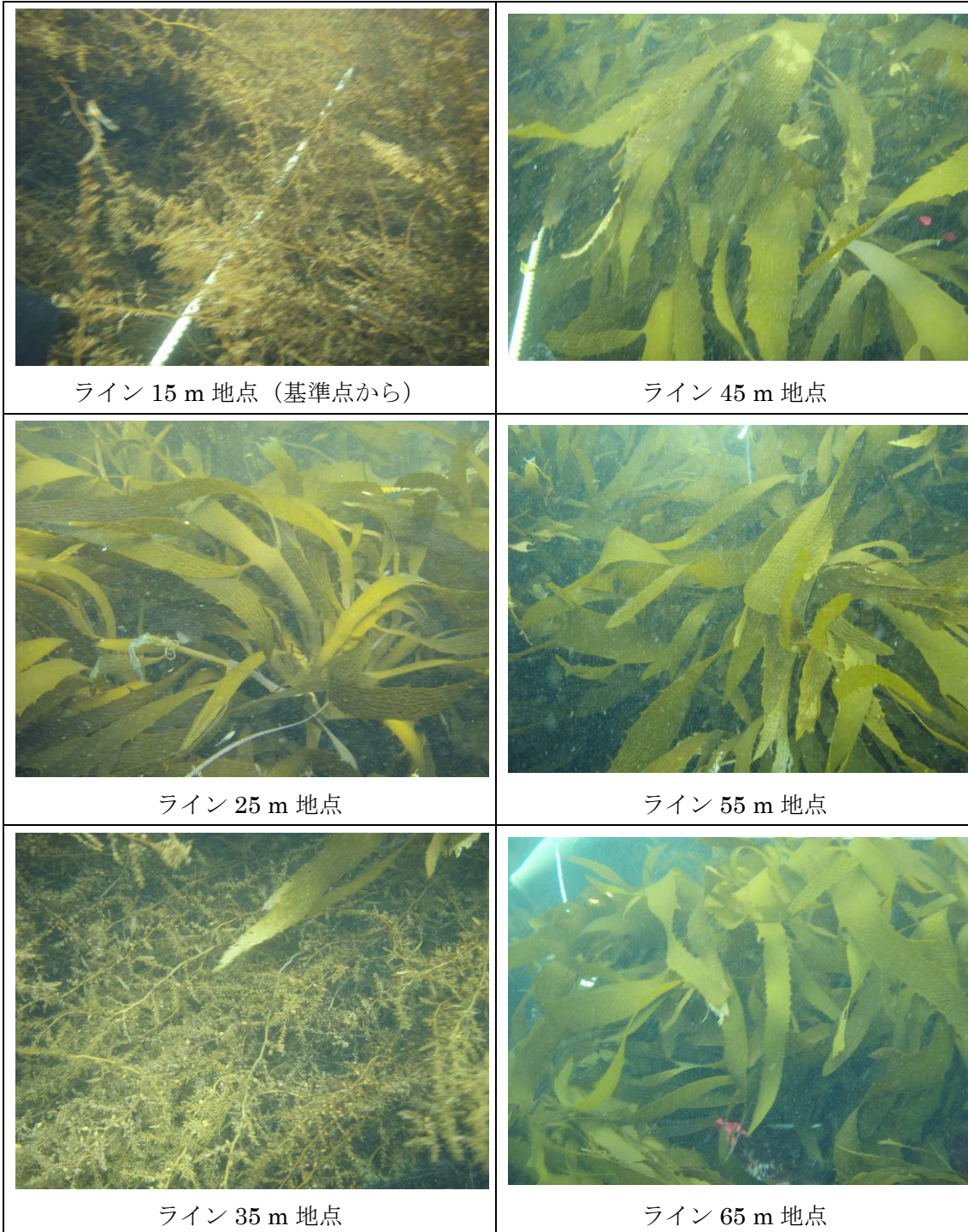


タオヤギソウ



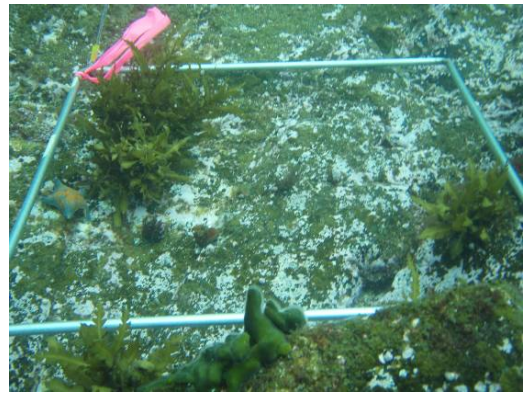
ユカリ (中央) とハイミルモドキ
(緑の藻体)

方形枠写真





ライン 75 m 地点



ライン 105 m 地点



ライン 85 m 地点



永久方形枠写真
(2 m × 2 m 枠に 4 分割した左下部)



ライン 95 m 地点